

メボソムシクイ



札幌市幌南小学校は札幌市のほぼ中央を南から北に向かって流れる豊平川の左岸に接して立地しています。玄関の前に小規模の植え込みがあり、ビオトープとも言えないささやかな水流をあしらってありました。その植え込みのサクラの樹冠でペアのメボソムシクイに出会いました。6年生の総合学習時間でキノコの植菌を指導するためにちょっと早めに到着し時間をつぶしていたところに鳴き声が聞えてきたのです。実はここに自宅から自転車で向かう途中、豊平川右岸の水辺のヤナギの林でも同じ声の主を確認しましたが、カメラに捉えることができなくて残念に思っていた矢先だったもので、満足な出来ではありませんが、なんとかレンズの中に捉えた映像であります。見つけるだけでも大変なウグイス科の鳥なので、これでも良しとしておきます。

メボソムシクイはセンダイムシクイと棲み分けているようで森林での出会いはありません。過去にも大通公園で出会っています。センダイは住宅地に囲まれた規模の小さいアイル公園なんかに来たりはしません。ムシクイやセンニュウの仲間を姿だけで同定できる人はまずいないでしょう。囀りや地鳴きの声を確認してやっと同定できます。コメボソムシクイと名前も姿も紛らわしい亜種がいるようですが、私のレベルでは区別するチャンスにまだ出会っておりません。この鳥は札幌あたりでは旅鳥とされています。道東で繁殖するらしいのですが、北ユーラシアからアラスカ西部にわたる広い範囲で繁殖し、冬は東南アジアに渡り、越冬することなので、立派な渡り鳥なのであります。

植菌の作業は3クラス約100人の生徒に40本のホダ木を用意しましたので、1本を平均2.5人で処理する勘定になります。駒穴開けの電動ドリル操作は生徒に怪我でもされたら大変なのでわれわれがやりました。1本当たり20カ所の駒穴に駒菌を打ち込む作業を全員にやってもらいました。「おねがいします」「ありがとうございました」ときっちり挨拶ができていました。

予定していなかったのですが、折角の機会なので最後に少し時間を拝借し子供たちに「キノコのはなし」をしてきました。小学校6年生はまだ子供らしい可愛さが残っていて気持ちのよいひと時でした。校長先生の意向ではクワガタムシを育てたいらしく、その餌さとなる原木やオガクズの供給を依頼されました。



後日、子供たちからお礼の言葉集がとどきました。21人もの子供から名指しで寄せられた言葉に、あつかましく「キノコのはなし」をしておいて良かったと思われる文面があり、嬉しく思ったことでした。